

ドミニオン オブ クライスト 2025年4月～

主にある兄弟の皆さまへ

いつも祈りと励ましをありがとうございます。新しい季節の歩みの中で、神様の恵みが日々注がれていることを覚えつつ、このニュースレターをお届けいたします。どうぞ主がなしてくださった素晴らしい御業を共に喜び、感謝を分かち合っただけであれば幸いです。

< チームビルディング >



今年のイースターホリデーは、山の中でチームビルディングを行いました。インターネットもスマホも使えない圏外での活動です。すべての喧騒から離れて、自然の中で教会のみんなと山の中を駆け回ります。老いも若きも、体力的な差も一切問わず、全員参加のチーム対抗戦の一日となりました。それぞれのチームが一つの目標に向かって助け合うことを第一とし、その目標は、「からだは人一つ、御霊も一つ、一つの望みを目指す！」ということでした。(エペソ4章)

このような早朝出発の行事では、なぜか誰も遅刻しません。どれだけみんなが、自然の中に飛び込んでいくことを待ち望んでいたか、ウキウキ感が表れています。礼拝も遅刻せずに、ウキウキ感を持って来れるようになるのですが.....

山の中とはいえ、日中は38度にもなります。汗と泥にまみれて、数々の障害物コースやアスレチックコースをクリアしなければなりません。単純に筋肉が物をいうわけではなく、チーム全員のことを考えて障害を乗



り越えるように構成されているため、頭も体も使い、ランチ時間までには全員がへとへとになりました。



疲れた体を癒してくれるのが、街中では出会えない数々の不思議な植物と動物たちです。カカオ、ミラクルフルーツ、孔雀にダチョウ。誰もスマホが使えないことを苦に思っているそぶりすらありません—これにはびっくりでしたが。自由時間の後は洗礼式。5人が決意も新たにその恵みにあずかりました。

自然の中で、神の造られた恵みを味わい、本当に身も心もリフレッシュできた一日となりました。

< お掃除隊出動！ >

6月の新年度が始まる一週間前、カルロス・ロムロ・ハイスクールの校長先生からご指名を受け、今年もお掃除隊が出動しました。私たちの担当は、3階建て校舎の2階と3階です。3階はこの2年間、物置として使われていたようで、ありとあらゆる不用品が詰め込まれており、それを取り除くだけでも大作業でした。

しかし、それ以上に大変だったのは、割れた窓ガラスや穴の開いた屋根から入り込んだ2年分の砂埃と雨水によるカビ、さらに野生動物による汚れを取り除くことでした。私たちは決して便利屋ではありませんが、校長先生から直接ご指名をいただけるのはとてもうれしいことです。





昨年度は、校長先生の声掛けに賛同した軍の兵士たちも加わっていましたが、しかし今年も、多くの NGO や教会に声を掛けられたものの、実際に参加したのはドミニオンだけだったようです。そのため、私たちが広範囲の掃除を任されることになりました。

さらに今回はうれしいことに、オリエンテーションに来ていた新入生 80 人分のランチも任されました。有志が早朝に集まり、教会で調理をしたものです。掃除をしたり料理をしたり.....こう

して聞くと、まるで教会の活動ではないように思われるかもしれません。しかし、ドミニオンの良いところは「何事もこつこつと地道に、隣人と助け合い共に歩む」ことです。

一見、無意味に思えることでも、このように地道で一貫した姿勢こそが、校長先生の信頼を得るという感謝な恵みにつながりました。とにかく、ドミニオンのみんなが人助けを心から大好きだという特徴は、本当にあっぱれだと思います！

< メンタルケア クラス始まる >



カルロス・ロムロ・ハイスクールにて、昨年度より試運転的に始まったメンタルケアルームでの活動が、本年度より本格的に軌道に乗りました。昨年は少人数によるアクティビティが中心でしたが、担当の先生の推薦もあって、今年は 30 人の生徒たちが集まるようになりました。

第 1 回目は、アン姉が加わり、彼女の証しから始まりました。弟が従妹を殺してしまい、現在も刑務所にいるという暗く悲しい事実を抱えながら、それでもどのようにして神を愛し仕えることができるのか——その証しでした。彼女にとっても、事件以来初めて語る証しであり、とても

有意義なものとなったようです。

証しの後、一人の生徒がアン姉のもとに来て、「自分の父親も同じように刑務所にいるのだ」と告白してくれました。重たい事実を抱え、誰にも言えずに苦しい思いをしていたこと。アン姉の証しを聞いて心が軽くなったこと。そして、自分は一人ではないと強く感じたことを、言葉を選びながら熱心に語ってくれました。



私たちのしていること、できることは、本当に小さなことかもしれませんが、しかし、誰かが手を差し出さなければ、必要とする人のもとに奇跡が届けられることはありません。

聖霊が臨まれるとき、私たちはキリストを語る力を受けます。だからこそ、上から受けたものを人々へと溢れ出させていくのです。

キリストを語り、いのちを語り、そしてキリストにある望みを語り続けます！

< 長雨による被害 >



「地球が沸騰している」と言われる状況下で、世界中が半端ない暑さや雨量に見舞われています。ところが、日本が体温を超える高温に困っている一方で、フィリピンでは 30 度以下の日が続いたり、せいぜい 33 度どまりという日が続きました。

そんな中、カルロス・ロムロで洪水被害を受けた 20 家族を支援しようという生徒会の運動がありました。教会としても何かできればと、日用雑貨や食品を届けました。私たちの愛する神様がいかに寛大なお方であるかを覚えつつ、私たち自身も神の似姿として、同じように寛大な者でありたいと願います。

< バイブルリフレクション >

日曜日のランチ後、聖書通読表をもとに、日々語られる生きた御言葉を分かち合っています。昨年よりも参加する兄妹が増え、遅ればせながらも御言葉を深く味わうことの楽しさがわかってきたようです。

ドミニオンの歩みはまるでカタツムリのようにゆっくりだなあとつくづく感じます。しかし同時に、確実に前進していることも実感します。たとえゆっくりでも動いていることを見ると、私たちは決して見捨てられていないこと、神様の目が確かに注がれていることを覚えます。なんとありがたいことでしょう。いつまでも小さなことに忠実な僕でありたいです！



< 孫くん9か月になる >



桃から生まれたのは桃太郎。ジークはスイカから生まれた！と言いたくなるほどよくできた写真だったので、私事ながら載せさせていただきました。アメリカにはこんなに大きなスイカがあるのかと感心しましたが、そのスイカを「はかせてしまう」というアイデアを実行した息子レビにも脱帽です。この写真は生後7か月の時のものですが、現在は9か月になり、元横綱「曙」を思わせるほど大きくなりました。

< 祈りの課題 >

- カルロス・ロムロ・ハイスクールの生徒たちが教会につながるように。
- 賛美チームに奉仕者が与えられるように。
- 教会が霊的にも人数的にも成長するように。
- 教会が地域において影響力のある存在、目印となる存在になれるように。

神様の恵みの一つひとつは、小さな歩みの中にも確かに表されています。どうか私たちが共に祈り合い、励まし合いながら、キリストにある望みを語り続けていけますように。皆さまお一人おひとりの上に、主の豊かな祝福がありますよう心よりお祈りいたします。